

# 教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8  
兵庫教職員組合  
発行人 山名 幸一  
編集人 泉 雄一郎  
電話 050(3538)2346  
1部7円 年定価280円  
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2010/10・15  
No. 1777

2面

平和教育実践交流集会



## 10月15日 兵庫県人事委員会勧告 月例給、ボーナスともに2年連続で引き下げ！ 50歳台後半層への給与減額には言及せず！



兵教組の独自要求を再度要請する川原書記長。(10月13日、兵庫県庁舎にて)

9月3日の県人事委員会に対する申し入れ以降、兵教組は県職労とともに、「減額措置を中止する勧告」「減額措置後の給与に基づく公民較差を基本とする」という50歳台後半層の給与減額措置は勧告しないことなどの重点要求項目について、精力的に交渉をおこなってきた。また、全組合員によるジャンボハガキのとりくみや第1波統一決起集会、各地区代表者要請行動、全支部からのFAX要請行動などの大衆行動を積み上げてきた。勧告・報告のポイントは次の通り。

### 県の独自カットについて

私たちは県の独自カットにより、給与を減額されて

◆給与抑制措置の影響分を除いた公民較差(△0.17%、△727円)を基本  
◆給与抑制措置の影響分を含めた公民較差は、5.04%(1万9938円)  
◆期末・勤勉手当は、国と同様0.2月分引き下げ  
◆自宅に係る住居手当は廃止にむけた見直し(月額2500円から1600円へ)

おり、その較差として「職員給与が民間従業員給与を1万9938円(5.04%)下回っている」とも報告

### 月例給について

「新行財政構造改革推進の方策を踏まえた給与抑制措置の影響分を除いた公民較差を基本とすることが適当である」とし、その較差が△727円(△0.17%)となったため、給料月額の引き下げ改定をおこなうこととなった。

### 一時金について

本県職員の期末・勤勉手

### 自宅に係る住居手当について

昨年、廃止に向けた見直しが行うことが適当とされた。本年は、給料表の改定とあわせ、公民較差を解消するために900円引



ジャンボハガキの追加(733名、累計15,240名)分を手渡した。(10月7日、兵庫県庁舎にて)

き下げ、月額1600円となったが、昨年同様、廃止時期については明示できなかった。

超過勤務の縮減、休暇の取得促進、職員の健康管理について

「超過勤務の縮減に向けた実効性が高まる」とりくみを進め、超過勤務時間を最小限に抑制と報告された。

報告の最後には、「本県の経済は、一昨年の世界的な金融危機以降の急速な景気悪化による、昨年の冬季賞与における厳しい民間状況等が反映される一方、新行財政構造改革推進方策を踏まえた給与抑制措置がおこなわれるなど、職員にとつて非常に厳しいものとなっている」「議会及び知事におかれては、より厳し

い環境の下、職員の士気高揚や働きやすい職場環境の整備に配慮」といった文言を盛り込ませた。また、年額調整についても「本県の実情を考慮」することが示された。

今後、国や他の都道府県の動向等を理由にした、県当局・県教委からのさらなる制度改悪の提起も想定され、予断を許さない厳しいたたかひとなる。また、私たちが超勤の縮減を実感できる具体的な方策や、働きがいのある風通しのよい職場環境づくりをもとめていく必要がある。私たちは、賃金合理化攻撃を許さず、2010年対県確定闘争勝利に向け、各支部での要求実現集会を成功させよう！

そして、「要求書」の完全集約体制をはじめとした、よりいっそう強固な団結と闘争態勢を確立しなければならぬ。



天野忠雄さん

「幼小の連携」をテーマに、グループ討議がおこなわれた。

開会行事の幼稚園部長のあいさつでは、伊丹の公立幼稚園が認定子ども園として民間委託への危機的状況が語られ、「抱えている問題は違うが、小・中の先生にも状況を知らせてもらい、助け合いたい」と呼びかけられた。

引き続き、「ふれあい遊びからの出発―幼小連携・からだ育ての視点から―」と題して、天野忠雄さん(子ども情報研究センター)からの講演があり、その後

まず「からだとは何か」が問われた。天野さんは「からだとは心は分離できないものであり、身と心が一緒にと握る方がよい」とし、五感(見る、聞く、味わう、臭う、触れる)のうち、「触れる」だけが全身を使うものと語った。また、子どもがするバイバイのしぐさから、子どもは見た通りにしているのか、した通りにしているのかを考えたとき、その人の体に自分が入り込

んでいる「からだことば」であると話した。講演の中では、参加者とともに実際に、ふれあい遊び・からだたほぐしを体験した。

「体ほぐし」の概念が、2002年4月から、小学校5・6年制の「体育」、中学校・高校の「保健体育」に導入された。明治の学制公布以来「体力主義」だった学校体育に、「力をぬくこと」「ほぐすこと」が登場したことは画期的なことだ。これまでは、「体力づくり」の名のもと、人間のからだを物体として考えて



「ももこ」(谷川俊太郎作の絵本)を使う遊び。絵本を読んだ後、子どもをひざの上に乗せて、絵

## 兵教組 幼稚園部学習会

「ふれあい遊びからの出発―幼小連携・からだ育ての視点から―  
―からだ・ことば・リズム―

講師：天野忠雄さん(子ども情報研究センター)



天野さんが現場で実践したところ、中学生もようこんだという「いたづらぎょうり」。きゅうりにみたくてられた人のからだをマッサージしていきます。(9月23日、ラッセホールにて)

9月23日、ラッセホールで「兵教組幼稚園部学習会」がおこなわれ、約60名が参加した。

「幼小の連携」をテーマに、グループ討議がおこなわれた。

「体ほぐし」の概念が、2002年4月から、小学校5・6年制の「体育」、中学校・高校の「保健体育」に導入された。明治の学制公布以来「体力主義」だった学校体育に、「力をぬくこと」「ほぐすこと」が登場したことは画期的なことだ。これまでは、「体力づくり」の名のもと、人間のからだを物体として考えて



「ももこ」(谷川俊太郎作の絵本)を使う遊び。絵本を読んだ後、子どもをひざの上に乗せて、絵

「体ほぐし」の概念が、2002年4月から、小学校5・6年制の「体育」、中学校・高校の「保健体育」に導入された。明治の学制公布以来「体力主義」だった学校体育に、「力をぬくこと」「ほぐすこと」が登場したことは画期的なことだ。これまでは、「体力づくり」の名のもと、人間のからだを物体として考えて

「体ほぐし」の概念が、2002年4月から、小学校5・6年制の「体育」、中学校・高校の「保健体育」に導入された。明治の学制公布以来「体力主義」だった学校体育に、「力をぬくこと」「ほぐすこと」が登場したことは画期的なことだ。これまでは、「体力づくり」の名のもと、人間のからだを物体として考えて

「体ほぐし」の概念が、2002年4月から、小学校5・6年制の「体育」、中学校・高校の「保健体育」に導入された。明治の学制公布以来「体力主義」だった学校体育に、「力をぬくこと」「ほぐすこと」が登場したことは画期的なことだ。これまでは、「体力づくり」の名のもと、人間のからだを物体として考えて

### 山の衣がえ

たつの市龍野小学校 四年 志遠

今日、ぼくはなんと山を見た。ちよつと前まできれいな緑色だった。今は、赤や黄色、茶色、ところどころに緑色がまざって、あざやかな山になっている。知らないうちに、山の色が変わっている。山は、会話しているようにあざやかな。春は、桜できれいなピンク色。夏は、まっさらな緑色。秋は、深い緑色から、にぎやかな赤や黄、冬は、葉がおちさみしい茶色。山も、ぼくたちのように季節によって衣がえをしているんだ。冬の山は、ちよつとさみしいから早く春にならないかな。

(こどもの詩と絵 第30集より)

伊丹市神津小学校五年 玉置 真美佳

# 平和を願う気持ちで次世代へ

自分たちで気づき考えることが、平和な社会を自分たちで作っていくこととする力の育成につながる

## 第33回平和教育実践交流会

兵教組は、これまで「平和を運動方針の重要な柱の一つとして、子どもたちとともに平和の尊厳を考える教育実践を積み上げ、史実と真実にもとづく平和教育・歴史教育を推進してきた。1978年から、兵教組・兵庫教育文化研究所の主催により、「兵教組平和教育実践交流会」を県内各地で開催し、平和教育の実践交流をすすめてきた。

10月14日、第33回兵教組平和教育実践交流会を朝来市で開催し、約70名が参加した。「伝える・引き継ぐ、平和を願う心」をテーマに、県内の平和教育の実践交流を深めた。

### 平和教育実践交流会を終えて



鷗 智行 朝来支部長

午前は、朝来市立大蔵小で平和学習の授業を参観した。大蔵小は、児童文学作



柴田東一郎さんから「じろはったん」の時代背景や当時の体験談を聞く子どもたち。(10月14日、朝来市立大蔵小学校体育館にて)

家「森はな」さんの母校であり、かつての勤務校だ。代表作の物語「じろはったん」は、第2次世界大戦後の大蔵小学校区を舞台に、知的障害のある優し純粋な心の持ち主の青年と、彼を取り巻く村の人々とのかわりが描かれている。大蔵小では、「じろはったん」を題材にしたとりくみをおこなっている。

②「子どもたちの太平洋戦争」 6年生の平和学習の授業を参観した。ゲストティーチャーの小田垣久野さんは、終戦時に教壇に立たれており、「当時、精一杯に生きていた子どもたちの姿を、今の子どもたちに伝えたい」と、軍国主義教育への変化や配給制など、当時の生活の様子を話された。また、今も世界のどこかで起こっている戦争について憂い、世界が穏やかで平和になることを願っていた。今の子どもたちに伝えたいこととして、「自分の命を大事にしてほしい」「みんな元気で仲のよい、今のままの気持ちを、ずっと大きくなるまで育ててほしい」という願いも話された。

### 夏休みファミリーパズル当選者発表



当選された方々のはがき。ご応募いただいたのはがきは、本部執行委員により抽選されます。皆さんのご応募をお待ちしております。

夏休みファミリーパズルに応募いただき、ありがとうございました。応募総数137通のうち、正解者の中から抽選で20名様に粗

- 品をお送りいたします。頂いた感想・ご意見は、今後の編集の参考とし、よい紙面づくりをめざして参ります。今後とも皆さんのご応募をお待ちしております。(編集部)
- 当選者
- 秋田由里子(洲本市)、太田武(南あわじ市)、大林万寿美(たつの市)、野田由美子(西宮市)、河田
- 智子(神戸市)、小林学(尼崎市)、阪下裕亮(姫路市)、佐藤信次(神戸市)、進藤泰子(小野市)、隅智恵美(宝塚市)、竹下昌代(三田市)、中島達也(朝来市)、西崎節子(神戸市)、根来泰子(芦屋市)、馬場創(篠山市)、守井宏明(川辺郡)、安村克之(姫路市)、山口美恵子(洲本市)、山中宏之(明石市)、吉永由香(明石市)
- 50首順、敬称略

①歌物語「じろはったん」 4・5年生による歌物語「じろはったん」を参観した。冒頭、校区に住む柴田東一郎さんから、「じろはったん」の時代・戦時中の自身の体験を交えた話を聞くことができた。柴田さんは、今の子どもたちに願うこととして、「皆さんの近い将来、今度は子どもが平和を作るんだ。自分たちが平和を作るんだ。ということ、じろはったんから学んでほしいと思う」と語った。発表では、物語に沿った歌や台詞に一生懸命とくむ子どもたちの姿を見ることができた。この歌物語は、20年近く大蔵小で代々歌い継がれている。発表をすることで、「聞き手に何を伝えたいのか」ということから学習はすすめられていた。

「平和教育の今までの経過と平和構築」 村上登司文さん(協力研究所員・京都教育大学教授)からの講話と各地区(支部)交流がおこなわれた。さまざまな資料を提示してもらった中で、「日本の子どもは戦争をおこなうことに対して、否定的に考える割

### 実践報告



午後、朝来教育会館に場所を移し、全体会がおこなわれた。基調提案の後、朝来支部のとりくみ、大蔵小のとりくみの実践報告があった。朝来支部からは、教科や地域教材を活かした総合的な学習、ボランティアによる絵本の読み聞かせ、修学旅行などの行事、児童・生徒会活動など、パネル掲示で各分会のとりくみを紹介した。それぞれの実践に沿った教育活動の中で、平和学習をすすめていることが確認できた。体験者や祖父母から話を聞いたり、遺品を見せられたりするなど、家庭や地域の協力のもと学習をすすめている報告も少なくなかった。

### 平和を願う気持ちを次世代へ



柴田さん・小田垣さんの話から、「平和を願う気持ちを、次の世代を担う子どもたちに伝えなければならぬ」という使命感を感じた。また、子どもたちの学習の場ではあったが、話しぶりや子どもたちに伝えたいという思いは、教職に就く者にとっても、よい学びの場となったように思う。

大蔵小では、物語「じろはったん」を地域教材として活用していた。人の優しさに触れ、戦争体験を聞いたたり調べたりする活動の中で、平和感覚を高め、平和について考え、平和な社会の実現のために行動できる児童の育成を目指し、平和教育にとりくんでいると報告があった。また、校区の自治協議会は、「あなたか心のふれあう大蔵ユニバーサル社会」の実現を目指し、「じろはったん村」の村づくりを計画し、とりくんでいるとのことだった。学校・地域が連携し、平和学習・人権学習をすすめているとくみは、さまざまなつながりの中で子どもたちを育てていくこととする一つの提案だと思ふ。

きょう、おばあちゃんから、せんそうのときはなしをきいた。わたしは、そんなにこわいことがほんとにあったとは、そんなじられません。そのとき、わたしはうまれていたら、しんでいたかも……。もし、おとうさんがせんそうにいらしたら、おとうさんはいっているのにおおろにはいないのに、はいれなくなるよ。四人ぐらしは、さみしいよ。せんそうは、ぜったいいやだ。(こどもの詩と絵 第30集より)

淡路市室津小学校 一年 なぎ りおな

ラッセホール自慢の全9種類の鍋が勢ぞろい

# 9周年鍋フェスタ

2011年3月31日(木)まで

11:00~14:00, 17:00~21:00

年末・年始 (12/29 ~ 1/3)のご利用は事前にご確認ください

写真はイメージです

いずれかよりお選びいただけます

- 豚しゃぶ・牛しゃぶ・ぶりしゃぶ・てっちり・かにすき
- すき焼・寄せ鍋・ちゃんこ鍋(みそ味)・ラッセ鍋

※ぶりしゃぶ・かにすき・てっちり・ラッセ鍋は前日17:00までのご予約にて承ります。※ラッセ鍋とは、牛・豚・鶏肉を使った水炊きです。ゆずしょう風味のピリ辛ダレにてお召し上がりいただけます。

今、話題の 淡路島本牧場のいのぶた使用 (ゴールデン・ボアポーク)

きめが細かくコクのある『淡路いのぶた』は「黒豚」と「猪」から生まれたシシ肉特有の旨味をもつ新しいお肉です。

豚しゃぶ・寄せ鍋・ちゃんこ鍋に使用

無料で個室をご利用いただけます 5名様より先着順

(ご利用は2名様より2時間制)

鍋(単体) ..... 当日お1人様 ¥5,000 ▶ 前売券 ¥3,980

チケットご使用の方

【フリードリンク】 通常価格 ¥1,500 ▶ ¥1,020

【フリードリンクメニュー (セルフ方式)】

- ◆生ビール ◆焼酎 ◆ウィスキー
- ◆ワイン (赤・白) ◆ハイボール
- ◆各種チューハイ ◆各種ソフトドリンク

※但し個室・宴会場をご利用の場合は、生ビールは瓶ビールとなります。チューハイ・ワインは取り扱いできません。

鍋・フリードリンク付プラン 当日お1人様 ¥6,500 ▶ 前売券 ¥5,000

ご予約・お問い合わせは レストラン リビエラ / TEL.078-291-1311

※表示価格には消費税・サービス料が含まれております。

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 4-10-8

TEL.078-291-1117 (代表)

FAX.078-291-0333

http://www.lassehall.com

E-mail info@lassehall.com

Lasse Hall CITY HOTEL